

危ぶまれる財政の危機 大型建設事業の見直しを

<日本共産党は2026年度予算に反対しました>



福田市議
代表質問

なぜ461億円もの赤字見通し

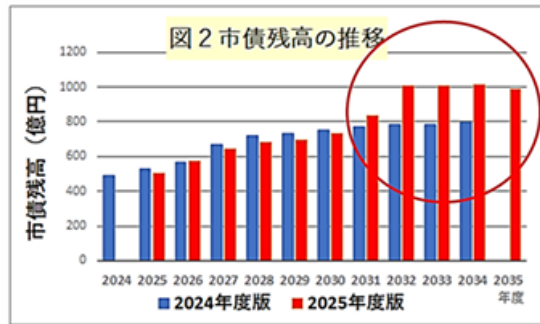
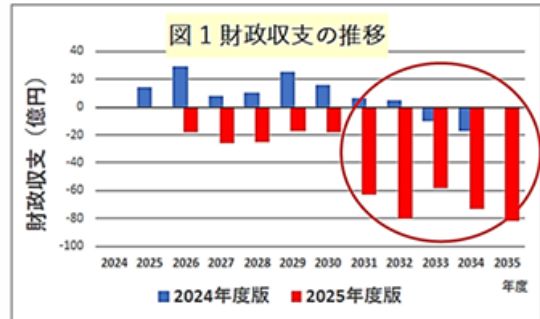
市は、今後10年間の収支（1年間の歳入から歳出を差し引いた金額）と市債残高（市が借り入れた金額残高）状況を長期財政収支見通しとして、明らかにしています。

24年と25年度版での見通しを比較すると大きな変化があります。

財政収支（図1）では、24年度版では歳入が86億円の黒字だったのが、25年度版では461億円の赤字見通しになっています。

とりわけ31年度より収支不足が単年度で60～80億円と増加しています。

市債残高（図2）は32年度より急激に上昇し、30年前のバブル崩壊直後の1996年に過去最大であった944億円を超過1000億円に達する見通しとなっています。



◆大きな赤字の2つの要因

大型建設事業と利払い費増大

一つは現在でもめじろおしの大型建設事業（右表）に加えて、32年度よりさらに高額な事業であるごみ焼却施設更新事業などによる市債残高の増大です。

二つ目は、金利上昇による市債にかかる利払い費（公債費）の増大で、24年度見通しでは1%台の金利が、25年度では3～4%に上昇し、大きくのしかかってきます。

（各種事業の2026年度における予算額）

事業名	金額（百万円）
粗大ごみ処理施設更新	5,576
サンプラザ市原改修	689
チバニアン施設整備	440
ちはら台学校給食共同調理場	1,265
八幡椎津線整備（平成通り）	975
小中学校空調整備（特別教室）	1,697
ごみ焼却場施設更新	56
拠点まちづくり(五井地区)	135
市庁舎整備	1,008
合計	11,841

（各事業全体の予算ではありません）

財政危機回避のために 総合計画の見直しを

昨年度25年度の普通建設事業の全予算に占める割合は、千葉県の全自治体平均で11.6%に対して、市原市は14.2%に達しています。多額の大型建設事業を内容とする「総合計画」をそのまま実行するならば、大変な財政状況を作り出すのではないのでしょうか。

長期財政収支見通しにたって、大規模事業の大胆な見直しと優先順位づけ、設備仕様などの精査が必要です。その際には、市民のくらしと市内中小企業への発注などを優先する事が求められます。

財政改善のためとして、くらしを危うくする各種公共料金の引き上げなど、新たな市民負担につながる施策は認められません。